

ボランティア部会 意見まとめ

令和元年度の新宿区の実施の推進について

●新宿2020サポーター

(1) 効果的なPR活動

- ▶オリパラに関する報道・情報が増えてくれば、自然と登録者・参加者は増えると思われるので、地道なPR活動を継続して行ってほしい。
- ▶PRにあたっては、紙媒体だけでなく、電子媒体等も活用するとよいが、どこか一つに情報を集約して、そこを見れば全てが分かるようにしておくとうい。
- ▶区内外国人を活用するべく、外国語のHPやSNS、チラシ配布等、外国人に対して積極的にPRしてはどうか。

▶サポーターの登録要件や登録方法だけでなく、実際の活動内容をより具体的に発信すれば、登録につながるのではない。

例) ・区公式ホームページ等でのPRにおいて、実際にサポーターが活動するイベントの情報(実施時期や活動内容、開催趣旨など)を合わせてお知らせする。

・サポーターが活動している姿や風景、生の声などの情報を発信する。

- ▶新宿2020サポーターの活動の「楽しさ」「面白さ」を発信してはどうか。特に、中学生などの場合、楽しそうなものや面白そうなものであれば興味をもって応募してくれる。大人向けと子ども向けで発信内容を変えてもよい。

例) 新宿2020サポーター募集の際に、「こんなアスリートにイベントで会える」ということや、こういうイベントで自分の語学スキルを活かすことができるということをPRする

- ▶大会気運醸成イベントにおいて、ボランティア気運を醸成するような取組みを行ってはどうか。

例) ・大会250日前イベントにおける新宿2020サポーターコーナー(サポーターの活動紹介や登録受付を行うコーナー)の出席

・大会250日前イベントにおける環境や福祉、障害者福祉など様々な分野のボランティアの紹介、体験コーナーの出席

【サポーターのPR概要】

- ①区公式ホームページへの掲載による
- ②チラシの配布による

新宿2020サポーター登録申込書 (FAX・郵送用)

氏名	姓	名	フリガナ(姓名をカタカナで)
年齢	歳	性別	男 女
住所	〒		
電話番号	〒		
FAX	〒		
電子メール	〒		
職業(学生は所属する学校)	〒		
活動内容	〒		
その他	〒		
備考欄	〒		

- ③東京ボランティアナビ(東京2020大会に向けたボランティアウェブサイト)への掲載による

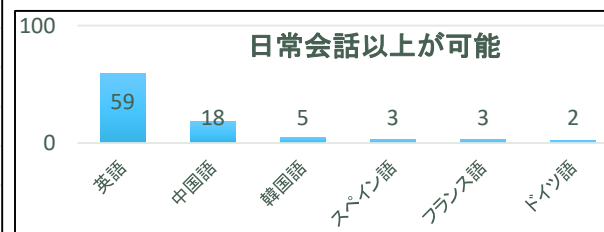
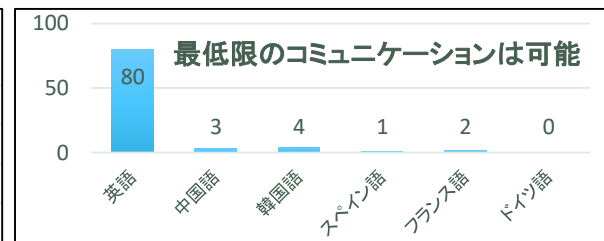
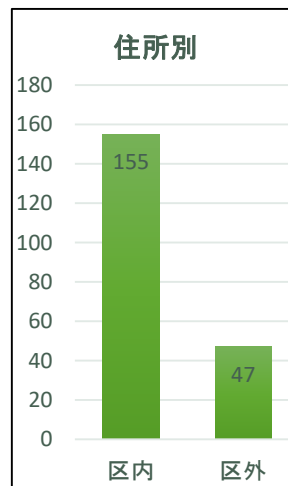
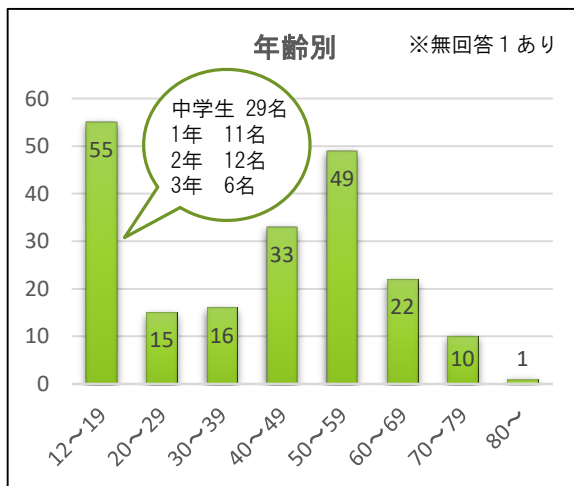
●新宿2020サポーター

(2) サポーターの活動内容の工夫

- ▶ サポーターどうしの交流が持てるようにしてはどうか。サポーターどうしがつながれば、イベントへのサポーターとしての参加はもちろん、サポーター登録者の拡大や、他のボランティア活動等の参加にもつながっていくのではないかと。
- 例) ・各イベントにおける交流スペースとしてのサポーター控室の設置 ・サポーター交流会などの開催 ・研修の実施
- ▶ 活動メニューに幅をもたせ、サポーターの得意分野の活動につながりやすくしてはどうか。
- 例) 事前登録や活動中などの機会を捉えてサポーターのスキルを把握する。
- ▶ 他のボランティア登録制度に比べ、40代や50代の比較的若い世代の登録が多い。「どなたでも気軽に」というコンセプトどおり、活動時間等に柔軟性をもたせておくことが重要である。
- ▶ サポーターへの周知や募集を早くに行ってはどうか。募集は早められなくとも、こういうイベントがあるということは事前に知っておきたい。事前にイベント予定を知ることができれば、スケジュールが立てやすくなり、参加につながるのではないかと。
- ▶ サポーターが安全に活動できることが重要である。特に、新宿2020サポーターは中学生以上を対象としているため、未成年者の安全管理は重要である。イベントの性質や規模に応じた安全管理を行うとともに、活動にあたっての基本的なルール設定を明確にしてほしい。

【新宿2020サポーター登録状況】

- ・コンセプト
：東京2020大会をきっかけに、どなたでも気軽にサポーター活動にご参加いただく
- ・登録者：202名
(8月20日現在)



(3) 今後

▶今後、登録者・活動者が増えた際には、役割分担等が重要となる。「どなたでも気軽に」というコンセプトに基づくサポーター活動の一方で、サポーター側に考えてもらい、一定の枠組みの中で主体的に関わってもらいたいということも検討してはどうか。

自分が必要とされているという認識が、実際の参加にもつながる。

例) イベントの事前説明会等でサポーター同士で議論して役割分担や活動内容を決めるなど

▶サポーターを対象としたスキルアップ講座を行う際、一般の方の参加も募って、この講座を受講すればサポーターとしても登録されるということにすれば、登録者の拡大につながるのではないか。

▶サポーターが主体的に活動していけるように、区とサポーターの間、サポーターとサポーターの間をつなぐ「コアのサポーター」ができるような仕掛けをしてはどうか。

▶大会後、サポーターを他のボランティア活動につなげるには、他のボランティア活動についての情報提供を継続的かつ積極的に行ってはどうか。

例) ・サポーター登録者へのメール配信等による他のボランティアの紹介

・サポーターの今後の活動希望を聴き取り、それに応じてコーディネートを行う